

ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES

ブラジル特報



あの町この町
モソロー Mossoró



特集 第三期ルーラ政権発足から半年

・第三期ルーラ政権の始まりと日本

0円

新規会員募集中!

詳しくは P21 をご覧ください。



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail info@nipo-brasil.org

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5 階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人: 大前孝雄/編集人: 岸和田仁

鉄とともに、人とともに。 私たちのSDGs

ふとまわりを見れば、社会は鉄でできたものにあふれています。様々なものづくりで暮らしを便利に快適にしたり、災害に備えインフラをより強く安全に変えたり、豊富な資源と高いリサイクル性で環境負荷を軽減したり…鉄はこれからも、人と地球の未来をささえる無くてはならない素材です。だからこそ、日本製鉄は鉄を進化させ続け、皆さまと力を合わせて持続可能な社会づくりに取り組んでいきたい。私たちのSDGsに、終わりはありません。

目次

あの町この町 モソロー [小林大祐]	3
ブラジル・ナウ 第三期ルーラ政権発足から半年 ～一人の在外ブラジル人からの私見 [フェリッペ・モッタ]	5
【特集】第三期ルーラ政権発足から半年 第三期ルーラ政権の始まりと日本 [山崎圭一]	6
PIX導入から2年半:変わる国民の生活行動 [片岡龍之介]	8
ー明日の日本を考えるー 2070年、日本の総人口約8,700万人に占める外国人の割合、10%超へ 外国人との共生が不可欠な時代に！ [藤川義人]	10
ブラジル映画 心に残るワンシーン 『Alguma Coisa Assim』(2016) [宮下ケレコンエリカ]	11
ブラジル現地報告 在伯福島県人会会長になった [佐藤フランスコ紀行]	12
連載・日系企業シリーズ 戸田建設のブラジル風力発電 [酒井 勲]	13
連載・ビジネス法務の肝 生成 AI に関するブラジル法上の論点 [柏 健吾]	14
連載・勤どころ～税務&ホットトピック～ ブラジルのエネルギーセクターにおけるトレンド及び課題 [ジョダス・フランセリ/天野義仁/三上智大]	15
エッセイ 在日外国人の子供たちへのオンライン日本語教育 [梅本祥子]	16
ブラジルに暮らして ブラジルは第二の故郷 [毛利律子]	17
ジャーナリストの旅路 ブラジルとインド「貧しさ」を再考する [岩城 聡]	17
連載・文化評論 追悼：ボリス・ファウスト教授 ブラジル史叙述を革新した歴史家 [岸和田仁]	18
最近のブラジル政治経済事情	19
キャンパス・コラム リオ留学でカリオカに変身？ [塚本直希レイ]	19
新刊書紹介	20
連載・ブラジルあれこれ 移民の原点神戸を訪ねる	20



写真＝永武ひかる
「表紙のひとこと」

「まぶしい陽の下に色とりどりの帽子が並ぶ。その楽しいセンスと、雨上がりにすかさず露天を立てる機転はさすが。リオ・オリンピック直前に再開された湾岸エリア。開放的な広場には名所の一つ「明日の博物館」が白く輝く」

永武ひかる：ブラジル撮影約30年、著作に写真絵本「世界のともだち3 ブラジル」(偕成社)等。
www.hikarunphoto.com

モソロー Mossoró

Mossoró で過ごした日々を思い出していたら、汗が出てきた。道路で目玉焼きができるといわれている町だ。Rio Grande do Norte (RN) 州第2の都市。砂漠の周辺に分布する半乾燥地帯に位置する。雨季でも降らないときは降らない。Acari という町にある Gargalheira という巨大ダムが干上がったのをみたこともある。半乾燥地帯の環境の過酷さをみせつけられた。

Mossoró にはそんな半乾燥地帯の「首都」の称号が与えられている。連邦議会に法案を出したのは Sandra Rosado。彼女は Mossoró の名門一族だ。RN 州の歴代知事など過去の有力政治家の名前を見ると、名前の一部に Rosado、あるいは Maia が含まれていることに気づかされる。

彼らの元をたどると、Jerônimo Rosado に行きつく。彼は最初の妻 Maria Rosado Maia との間に3人、そして後妻 Isaura Maia との間に18人の子供を設けたが、11人目以降、12人目の子供を除いては、全員がフランス語の数字をモチーフにした名前がつけられている。

Dix-Sept Rosado という市が Mossoró の近くにある。元州知事だった17番目の Rosado が由来の地名だが、Chat GPT に入力したら、「Dix-Sept Rosado はフランス・プロヴァンス地方のロゼワイン」と珍回答が出てきた。

Mossoró で大変お世話になったのはメロン栽培で大成功されている大谷正敏さん。部屋を借りるときも不動産屋に同行してくれた。業者は家主に電話して、「メロンの日本人の紹介だ」。何度も「メロン」と連呼していた。メロンこそ信用手形なのだ。すぐに承諾してくれた家主はブラジル最大手の製塩会社 Cimsal の息子だった。

メロン、塩と来て、忘れてはならないのは石油だ。Mossoró は国内最大の陸上石油の産地である。石油を掘っていたら出てきたという温泉を利用してできた20haのリゾート(Thermas Hotel Mossoró)がある。こちら国内の温泉施設では最大規模とされる。

いわゆる「棚田式温度差温泉」で、温度が異なるさまざまな温水プールを楽しむことができる。最も水温が高いところは55度近くに達し、周囲は柵で囲まれているが、ふんどし姿で入浴した日本人がいて、その勇姿に地元民はひれ伏したという話を聞いた。

子供たちがまだ小さかったので、暇さえあればそこに通っていた。Mossoró での生活は1年ほどだったが、振り返れば、バラ色の日々だった。

小林大祐(「ブラジル特報」編集委員)



広島から Tudo Bem?

会員団体紹介

「カポエイラでブラジル伝えたい」

広島でブラジル文化を伝える活動を行う団体は多くないなか、活発な活動を続けるカポエイラ・ナチーヴァ(Associação de Capoeira Nativa、会員数 20、米田周平代表)は、1999 年に創立された老舗とも言える存在です。ブラジルの



▲子供たちも汗を流す練習の風景

「ブラジルを知ろう」学生らが企画 現地ともオンラインで結ぶ

広島市内の大学生らが中心となり立ち上げた世界各国の文化を知る企画「グローバル・デイ」の第 1 回にブラジルが選ばれ、6 月 4 日に約 20 人が料理や音楽などを楽しみました。

ブラジル人男性もオンラインで参加し、歴史や文化、習慣などの紹介を日本語で行い、ダンスなども披露。来場者は関心深そうにスクリーンに見入っていました。

コシンニャ、ポレンタ、フェイジョン、カイピリーニャなども提供され、学生らは初めての味に舌鼓を打っていました。

発起人の一人で料理などを担当した安藤優作さんは「架け橋のようなイベントになった。今後も地域と外国を結ぶ企画を続けていきたい」と盛り上がる会場に満足そうな表情を見せていました。次回は短期留学で訪れるフィリピンをテーマにするようです。

会場となったゲストハウスのオーナー正垣紅さんは「学生たちの思いに共鳴してくれた多くの協力者のおかげでいい会

サンパウロ州ピラスンガ市に本部があり、広島、福山市内を中心に週 5 回の練習を行い、会員らは汗を流しています。当初はブラジル人が中心でしたが帰国などで広島を離れることが多く、現在はほぼ日本人で構成されています。

カポエイラは一言で言うと格闘技ですが音楽や歌や踊り、奴隷制度に関わる歴史といった様々な要素で成り立っています。ブラジル文化を深く理解しないと伝えることは難しいといえます。

米田代表は「指導者の資格を得た今でも学ぶ事ばかりで全く底が見えて来ません」と笑う。ゲームに登場したカポエイラに興味を持ち体験をしに行ったのをきっかけにその魅力に取り憑かれ、今は指導する立場となったようです。「サッカー、サンバの名に続いてカポエイラの名が上がってくるようにこの素晴らしい総合文化を広められたら」と今後の普及活動に思いを込めていました。

になった」と笑顔で話していました。

企画内容を提案するなどする形で協力した広島日伯協会の堀江剛史理事は「若い人の外国に対する好奇心には驚いた。広島とゆかりの深いブラジルに関心を持ち続けてほしい」と期待を寄せていました。



▲会場には多くの笑顔があふれた



広島日伯協会

ブラジルと広島の交流を推進するため 1969 年に創立。在広島ブラジル人との多文化共生社会を支援し、ブラジル広島文化センター(県人会)と県、市ほか関係市町村と連携を取りながら活動している。法人会員 75、個人会員 80。田中秀和会長(6 代目、2020—)は、在広島ブラジル連邦共和国名誉領事。



第三期ルーラ政権発足から半年 一人の在外ブラジル人からの私見

日の下に新しきものなし

5 月はトルコ大統領選挙でメディアが賑わった。決選投票に持ち込まれたものの、エルドアン大統領が再選を果たし、新たな任期を勝ち取った。また、次のアメリカ大統領選挙が既にキックオフしている。現職のバイデン氏の他に、前大統領のトランプ氏が有力候補者として出馬を表明している。フロリダ州のロン・デサンティス現知事などもいるが、どうやら 2020 年のバイデン対トランプの再演になりそう。

現在のブラジル政治とよく似ていると思わざるを得ない。今年になって私は周りの日本人に「新しい大統領はどう?」とよく訊かれるようになったが、「確かに今年に就任されたが、新しい大統領ではないよ」と溜息をつきながら答えてしまう。やはり日の下に新しきものなしか。

気が早いですが、2026 年の大統領選挙にボルソナーロ前大統領が出馬しない可能性が極めて低いことを考えたらルーラ現大統領も再選に挑むのではないかと考えてしまう。去年と全く同じ構図になりそうで、正直に低調気味だ。

私の専門が移民史で、現代ブラジル政治史なら門外漢だが、本稿でルーラ政権発足半年に際して私見を述べさせてもらおう。政治史から見れば在野の研究者である上にブラジルに住んでいない在外ブラジル人なので、「ダブル在」になるが、ご笑読いただければと思う。

民政復帰後のブラジル政治を復習すると

1985 年に生まれた私は軍事政権や再民主化についてほとんど覚えていないが、サルネイ政権の時に猛威を振るったハイパーインフレ、コロール大統領の「impeachment」(たぶん初めて覚えた英単語)、イタマール大統領が奨励した VW Fusca(旧式ビートル)の再生産、カルドーゾ氏のリアルプランなど、現在に近づけば記憶が鮮明になってくる。

それらの出来事の背景にいつもいたのは再三も立候補し、結局は敗れてしまったルーラ氏だ。北東部の生まれで、ルーラは若い頃にサンパウロ州に移住し、溶接工として働いた。1980 年代にはサンベルナルド・ド・カンボ市を中心とする労働組合のトップになり、民主化のプロセスに参加した。労働者党(PT)の創立メンバーでもある。

2002 年にルーラが大統領に初当選した。再民主化以降、初めて 2 期を務めたカルドーゾ大統領に続き、初めての PT 政権が樹立された。ルーラ第一期政権が発足した時、ブラジルは実に希望に満ちていた。過言かもしれないが、個人的にはムード

は米国の初黒人大統領になったオバマ氏の初当選(2008 年)に比較はできないだろうかとさえ思う。国民とルーラ政権はメンサロン事件が発覚されるまでほぼ蜜月状態で、飢餓撲滅、中流階級拡大、債務返済が可能という期待があった。さらなる汚職事件やリーマンショックを経てもルーラの支持率が持ちこたえ、2 期目の終わりに人気が高いまま政界から退いた。

後継者であったルセフ大統領は弾劾裁判を起こされ 2 期目の最中に失職した。副大統領から昇格になったテメル氏の後にボルソナーロ政権が続いた。なお、ボルソナーロの当選によりブラジル政治が根本的に変えられ、露わなポピュリズムの再来を経験した。包み隠さないヘイトスピーチ、取り留めのない環境破壊、トランプ氏との恥ずかしい「プロムス」、フェアな選挙に対する根も葉もない疑惑はブラジルの民主主義に深い瑕疵を負わせた。何よりも、国民にまで広がった政治的な分裂は息苦しい雰囲気醸し出した。

希望も新鮮味も感じられないが

こういう時、救世主を求めるのはブラジル国民の心理かもしれない。ボルソナーロという強敵に太刀打ちできるのはルーラしかないという雰囲気が作られ、ルーラが再び候補者になった(字数の関係で本稿ではルーラ裁判の件は割愛する)。ルーラが僅差で勝利を収めたことは如何にブラジル社会が分裂していたかを物語っている。しかし、選挙中はルーラを応援した人が多かったものの、就任式が過ぎ、半年が経った今は「希望に満ちた」雰囲気はあまり感じられないのは何故だろうか。

勝手な推測に過ぎないが、「新鮮味の欠如」が原因の一つではないだろうか。ルーラの初当選からブラジルは約 15 年間の労働党政権を経験している。メンサロン事件を初めとする様々な汚職事件が暴露され、労働党とルーラ自身のイメージに罣が入ったことも否めない。何よりも、一回は政界を引退した人物が再び登場するのはなんか不拍子のように感じてしまう。ルーラ第三期は環境省のマリナ大臣との軋轢や、議会との不透明な交渉が再演される中、国民は既視感があまりにも凄まじく、希望が差し込む余地がないかもしれない。

ウクライナ情勢、米国と中国との外交関係、環境問題とアグリビジネスの微妙な均等など、ルーラ政権の課題は山積み。成果を上げなくてもルーラの名前は既にブラジル政治史に深く刻まれているが、改めて「希望」という感情を国民に沸かせるかどうか問われているのが実感だ。政治家の新しい世代が生まれることを切に願いながら、成功を祈るしかない。

フェリッペ・モッタ(京都外国語大学講師)

第三期ルーラ政権の 始まりと日本



山崎圭一
(横浜国立大学大学院
国際社会科学研究院・教授)

はじめに

日本とブラジルの間の、外交・政治、経済、社会、文化・スポーツ、国際協力などの諸領域における二国間関係は、政権の違いにかかわらず、平和で友好的であった。たとえば貿易関係でいえば、歴史的に相互補完的であった。互いに不足するモノを貿易しあう関係で、貿易摩擦は、筆者の知る限り、生じていない。現在も貿易は相互に活発で、2014年以降は日本側の貿易黒字が続いている(数百億ドル規模)。新しいルーラ政権(2023年1月からの第3期目)は、日本との関係については、従来の流れに沿った友好的外交を展開するであろう。今年日本とブラジルは、国連安全保障理事会の非常任理事国である(任期は2年)。国連安保理は、拒否権を有する5つの常任理事国(米国、UK、フランス、中国、ロシア)と10ヶ国の非常任理事国から構成され、後者は国連総会での投票で選出される。中南米からは今期エクアドルも選出された。日伯両国は、20回以上非常任理事国を経験している。安保理の機能について限界も指摘されているが、両国が協力して、世界の平和と繁栄に対して重要な貢献を果たすことを期待したい。

最近日本のTV報道で、ルーラ大統領を一瞬見かけたという読者も、多いであろう。すなわち5月19日～21日のG7広島サミットに招待され、参加されていた。その会合で、大統領は核兵器禁止条約を批准する意向を表明された。ブラジルは1968年にラテンアメリカ・カリブ海地域の核禁条約であるトラテロコ条約を批准していて、世界版の核禁条約についても、2017年にテメル大統領が署名した。しかし批准はまだである。

日伯戦略的 グローバル・パートナーシップ

経済分野での国際的イシューとしては、EUーメルコスル間のFTAやブラジルとアルゼンチンの間の共通通貨構想(デジタル通貨利用案)などがある。日本との関係では、多分野を包括した日伯戦略的グローバル・パートナーシップがある。これは、2014年8月1日に首都ブラジリアで発表された共同声明で、ジルマ・ルセフ大統領と安倍晋三首相(いずれも当時)の間で合意された重要文書である。17年6月に、これをふまえて在ブラジル日本大使館が政策文書を発表しており、本年1月9日、林芳正外務大臣がブラジルを公式訪問した際にも、M. ヴィエイラ新外務大臣と、あらためてこの戦略的グローバル・パートナーシップを発展させることを確認された。この戦略は、政治、経済、科学技術、社会、教育・文化・スポーツ、日系社会、領事関係など、「あらゆる」分野を包括している。

全方位外交と 連邦憲法第4条

ブラジルにとっての、より広い外交問題としては、難題であるが、2022年2月に始まったウクライナ戦争の停戦調停がある。この点で、ブラジルは世界の「多極化」を念頭においた全方位外交の路線を追求している。いわゆる「グローバル・サウス」の代表格を自認しているといえよう。むしろ「グローバル・サウス」といっても多様で、インドやインドネシアもそれぞれ独自の外交を展開している。客観的にみて、ブラジルが彼らすべての代表ではありえない。いずれにせよ、多

国間主義の路線を歩んでいて、これはブラジル外務省主流派の伝統でもある。前のルーラ政権期に外相を務めたセルソ・アモリン氏が、外務官僚としてはその路線の代表といえよう。新ルーラ政権のマウロ・ヴィエイラ氏もベテラン外交官で、前のルーラ政権ールセフ政権では、駐アルゼンチン大使と駐米大使を歴任されている。同じ多国間主義の伝統を継承する外交官だと思われる。

ブラジルの全方位外交の姿勢は、ルーラ氏の思想や外務省主流派の伝統だけでなく、現行のブラジル連邦憲法第4条に整合的である。同憲法は1988年に発効し、その後35年の間に修正を107回実施しているが、第4条は不変である。短いので引用しておこう(項目毎の改行は省略、訳は矢ヶ崎通朗訳を使用):「第4条 ブラジル連邦共和国は、国際関係において、下記の諸原則により規律される。Iー国家の独立;IIー人権の尊重;IIIー民族の自決;IVー内政不干渉;Vー国家の平等;VIー平和の擁護;VIIー紛争の平和的解決;VIIIーテロリズムと人種差別主義の排除;IXー人類の進歩のための諸国民の協力;Xー政治亡命の許与。単項 ブラジル連邦共和国は、ラテンアメリカ諸国の共同体の形成を目的として、諸国民の経済的、政治的、社会的および文化的統合を追求する。」

ウクライナへの武器供与の拒否はIV、VIおよびVIIに、アルゼンチンとの共通通貨構想は単項に、それぞれ規定されているように、筆者には感じられるのである。

内政：都市住宅政策

ビジネス面では、ブラジル自動車市場で電気自動車(EV)がどう展開するのか、Web2や次世代技術のWeb3はブラジ

ル市場でどう拡がるのか、C6 Bankのようなユニコーン・スタートアップ企業が今後も誕生し続けるのかなど、気になる点である。もっといえば、ついにブラジルから、日本の中学生でも名前を覚えるようなグローバル企業が生まれるのか。社会問題では、アマゾンの熱帯林消失をマリナ・シルヴァ環境大臣がどの程度減らせるのか(前回の大臣のときの最少消失面積約5000平方kmを切れるか)、貧困対策の財源をどう確保するのかなど、気になる点がいくつもあるが、筆者の昔からの研究テーマに関わる問題に絞って、2分野を紹介しておきたい。

1つは都市住宅政策である。前のルーラールセフの労働者党政権時代に「私の家、私の人生(Minha Casa Minha Vida)」プログラムという公的住宅金融制度を拡充して、貧しい階層にも持ち家取得を促した。原資は、周知のように勤続期間保証基金(FGTS)という強制貯蓄で、これはブラジル版の財政投融资制度である。ローンの取り扱い機関は連邦貯蓄銀行(CEF)である。ブラジルの住宅不足すなわち劣悪な住宅は、約580万戸で(他の推計もある)、このプログラムの供給実績が500万戸強である。したがって理論上、「ファヴェーラ」というスラム街などはほぼ解消したはずだが、実際には、ファヴェーラは減っているようには見えないし、増加したという統計数値もある。この謎解きの答えは簡単で、図に示したように、抵当ローン制度が対応した階層が上に少しずれていた。要するに金融制度だけでは、労働者党政権でも最貧困層は救済できなかったのである。

サンパウロ大学(USP)の都市建築学部(FAU)教授で、都市政策分野の国連報告者(rapporteur)もされたR. ロルニック(Rolnik)教授は、ブラジルをふくめた全世界の住宅政策について、主流となった抵当ローン(モーゲージ)中心の持ち家促進政策の限界を指摘され、財政政策による公営賃貸住宅など公的住宅ストック増加への大転換が必要だと力説されている。問題は、ルーラ政権が金融アプローチ(住宅ローン)以外に、

財政アプローチに関心があるかどうか、またあったとしても財源確保ができるかどうかである。

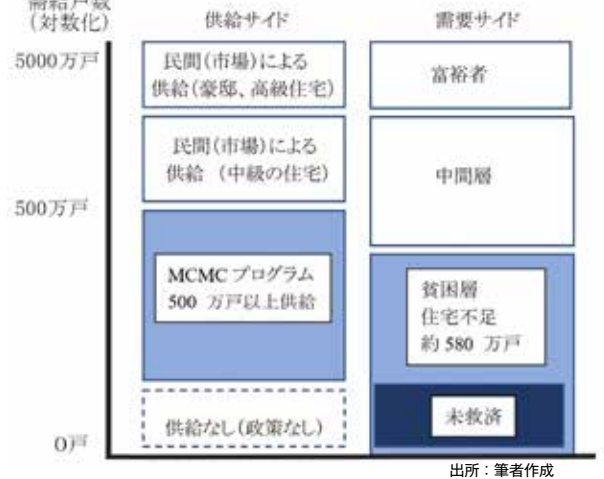
在日ブラジル人 コミュニティへの 支援

もう1つは、在日ブラジル人コミュニティへの支援である。上述の日伯戦略的グローバル・パートナーシップにも含まれている。しかし支援の拡充は、日本国内の多様な事情があって、簡単ではない。筆者は数年来、ブラジル人集住地区の1つである横浜市の鶴見区で、ブラジル国籍をふくめた外国つながりの小学生の学習支援のボランティア活動を、NPO法人ABC Japanの活動に参加する形で、進めている。現場からみると、道は遠いという印象である。

ブラジル人だけでなく、外国人労働者全般について、支援の取組みが遅れている。その結果社会問題が発生し、悲惨な実状の一端は、ドキュメンタリー映画『孤独なつばめたち』(2011年)や役所広司主演の映画『ファミリア』(2023年、ドキュメンタリーの要素も多い)から、知ることができる。いずれも芸術作品として、深みのある傑作である。課題は山積しているが、とくに筆者が重要だと考えているのは、「外国つながり」の子どもたち(海外で生まれ育った日本人を含む)への学習支援である。

1つの課題は、法整備である。大人への支援については、日本語教育推進法が2019年に施行され、一定程度が進んだ。同法は文化庁の所管である。子どもたちの支援については、学校教育が重要である。だとすると、おそらく文科省の初等中等教育局を動かさなければならない。そのためには、より包括的な多文化共生推進基本法の制定が必要であろう。同法の制定の必要性は、専門家によって20年以上前から指摘されてきた。現在国会に法案は上程されている。ブラジル政府がいくら支援を強化しようとしても、当然ながら、日本の小中学校の教室には

500万戸以上社会住宅を提供しても
ファヴェーラが解消しない理由



出所：筆者作成

介入できないので、日本側の努力がまず求められる。小中学校の教育カリキュラムそのものに学習支援を組み込むことは、日本語教育推進法の力では十分なのだろうと思われる。

現状では、あくまで課外活動として放課後に、学校側の「国際教室」担当の常勤教員をわれわれボランティアが支援しながら、宿題などの学習支援の活動を進めている。こうして低迷する高校への進学率を何とか高めたいと考えている。またボランティア部門に人的資源が十分にあるわけではないが、高校進学後の学習状況の実態把握や、それに基づいた高校での学習支援の拡充(大学進学率の向上)が望まれる。むしろ進学指導以外にも、中高生への就職支援活動も重要である。多くの関係者が、多文化共生推進基本法の制定を待ち望んでいるように思われる。

まとめ

最初に日伯関係を概観し、次にブラジル外交の特徴と憲法第4条を振り返ったうえで、筆者の目下の研究テーマである住宅政策と在日ブラジル人の子どもたちへの学習支援を考察した。日伯関係は重層的かつ多様で、一人で全体を細部まで把握することは不可能である。何十年ブラジルと関わっていても、「新発見」に遭遇する。「え、あの方もブラジルに関わっておられたの?」という驚きは、本誌の読者なら、何度か体験されているであろう。これが日伯関係論の面白さである。新政権下においても、両国の厚い関係の歴史に、人々を鼓舞するような新しい展開が付け加わることを祈っている。

PIX導入から2年半： 変わる国民の生活行動



片岡龍之介
(国際協力機構ブラジル事務所員)

2020年11月にブラジルで即時決済システム「PIX（ピックス）」が導入されてから、2年半が経過した。導入以前に主流だった銀行振り込みやクレジットカード決済を押し分け、現在は国民の大部分が支払い方法にPIXを選択するまでに、その地位を確立させている。日本でも、コロナ禍による非接触型決済の普及に伴い、キャッシュレス決済全体におけるコード決済額が大きな伸びを記録したが、ブラジルにおけるPIXも、導入からわずか1年でその取引額が4兆リアルに達した。ブラジル中央銀行によれば、PIX利用者は2023年4月時点で1億4000万人近くに達し、人口の6割強を占めるほどに順調に普及が進んでいる。

パーティー参加者間の精算に

PIXとはブラジル中央銀行が導入した即時決済システムであり、利用者は365日24時間いつでも、場所を選ばず支払いができる。中央銀行が導入したシステムなので、特定の企業の金融サービスに申し込んだり、クレジットカードを登録したりする必要はなく、銀行口座を持っていれば誰でも利用が可能だ。各自の銀行口座内でPIXサービスを開始するだけで簡単に支払うことができる。銀行のウェブページからログインして取引することも可能だが、通常多くの人は自分の銀行アプリをスマートフォンにダウンロードしてからアプリ経由で送金している。現在では大手以外の銀行やネット銀行のアプリでも続々とPIXにより送金できるようになってきた。

利用者がPIXサービスの利用を開始するためには、その登録に際してまずPIXキーを定める。これは納税者番号（CPFやCNPJ）や電話番号、メール

アドレスなどから利用者が自由に選択でき、送金元が金額とPIXキーを入力するだけで送金が完了する。わずか十数秒の早業だ。個人によるPIX支払の際に手数料は発生せず、QRコード決済などにも対応しており、電気料金の支払いや朝に立ち寄るカフェでの支払い、パーティ後の参加者間での精算など、手軽さや速さを求められる場面で多くの利用者に活用されている。

日本全体における非接触型決済利用者数も6割に近い数字と思われるが、ブラジルのPIXのケースで特筆すべきはその導入がブラジル社会全体にもたらした支払形態の変化である。ブラジル国内の調査会社の調べによると、店頭での支払いの際に現金支払いを選ぶ人の割合が12.9%であるのに対し、PIXを選択する人の割合は29%と、すでにPIX優位の大きな差が生まれている。支払形態以外にも、導入から今日に至るまで利用者と銀行、ブラジル中央銀行の間でPIX活用をめぐる様々な動きがあり、ブラジル国民の生活行動も大きく変化してきた。2023年3月には、PIXの全国的な普及を踏まえブラジル中央銀行によるデジタル通貨の試験プログラム開始が報じられ、国内の金融サービス利用拡大に



▲今やほぼ全ての銀行サービスの
スマホアプリでPIXが利用可能

向けた施策がさらに加速することが期待される。PIX導入がこの数年間で国民の生活にどのような影響をあたえてきたのか、今一度振り返ってみたい。

ATM使わず現金引き出し

まず、PIX導入以前の包括的な送金手段の一つであったDOC取引（手数料が低い代わりに翌日送金される銀行取引）が2024年2月に廃止になることが決まった。30年近く運用されてきた送金手段だったが、既にもう一方の送金手段であるTED取引（当日送金される銀行取引）の運用主流化による衰退があり、PIXの普及がそこに拍車をかけた形だ。DOCもTEDも銀行手数料が発生する送金サービスであり、銀行収入の一部を担っていたが、PIXの普及に伴う手数料減少により、2021年時点で大手のブラジル銀行（Banco do Brasil）の収益は前年比17%減を記録した。しかし、2022年度には国内の主要銀行のほとんどが前年比で収益を増やすことに成功しており、金融フィンテック拡大に対する各銀行の柔軟性が伺える。実際、PIX導入は銀行側でも技術革新の結果として自然体で受け入れられており、ブラジル中央銀行はPIX導入後であっても各銀行が収益を増やしたという結果をアピールしている。

導入当初は単なる即時送金システムだったPIXも、その普及に伴い新たな機能を続々と追加させていった。銀行手形の機能に加え、2021年11月にはPIXを使って現金を引き出すことができる機能（PIX Saque＝ピックス・サッキ＝やPIX Troco＝ピックス・トロッコ）も実装が開始された。PIX Saqueは、利用者がスーパーや町の商店などに行き、店頭でPIX決済によりその金額

を現金で受け取ることができる機能である。Pix Trocoは、店頭で商品またはサービスを購入する際に、価格を上回る金額をPIXで支払うことによって余剰分を現金で受け取ることができる機能である。2023年5月現在、どちらも月8回までは手数料無料で利用が可能だ。これで、利用者はわざわざキャッシュカードやクレジットカードをもって銀行やATMに行かなくても、近所のスーパーの店頭で現金を引き出すことができる。

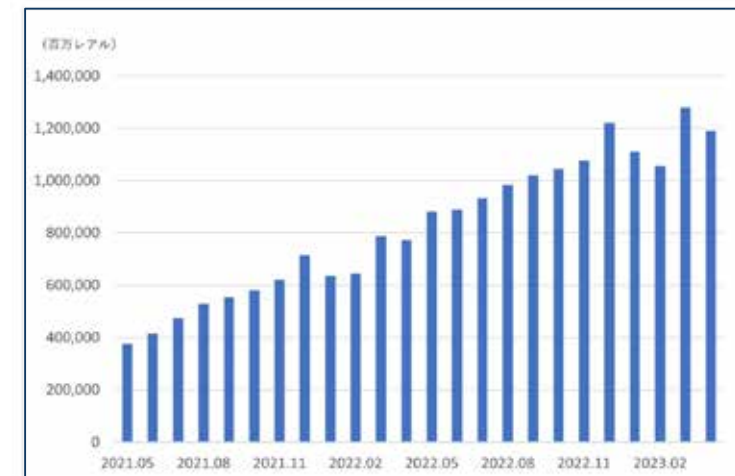
公的機関の給与・年金給付に

現金支払いを含む既存の決済方法をいくつも押し分けて存在感を発揮するPIXだが、それにとどまらず、それらを自らに吸収する動きも見せている。2022年から、ブラジル中央銀行の規定整備に先行して、国内のいくつかの銀行がPIXの分割払いサービス（PIX Parcelado＝ピックス・パルセラード）を開始した。似た機能の実装をブラジル中央銀行が計画していたが、市場側が先に顧客のニーズに対応して独自にリリースした形で、ブラジル金融市場全体がPIXの有機的活用に対して非常に柔軟である。

一方、ブラジル中央銀行も2023年内にリリースする新たな機能として、公共料金やサブスクリプション料金の支払いを自動引き落としでできるPIX Automático（ピックス・アウトマチコ）や、ダミー口座への送金を制限するセーフティ機能、クレジットカードの機能をPIXに実装させる機能と思われるPIX Crédito（ピックス・クレジット）などを予定している。リリースされる機能の多様化により利用手数料が新たに設定されるのかどうかは不明だが、生活で使われるあらゆる決済機能がPIXに収れんする方向に向かっているのは明白である。

決済機能の集約化に加えて、利用者層や決済対象の拡大も進む。2022年12月には、ブラジル中央銀行がPIXの金額規制の廃止を発表したことを受け、公的機関も給与や年金、ボーナスなどの支払いをPIXによって実施することが可能になった。現在PIX取引の約9割が個人（P）や企業（B）の間の

図：PIX取引額の推移（出典：ブラジル中央銀行）



P2P、P2B、B2B、B2Pビジネスで占められているが、今後は政府系（G）とのG2PやG2Bビジネスの取引増加が見込まれる。2023年4月時点のPIX利用者の年齢別内訳を見ると、20代と30代がそれぞれ約30%、40代が約20%を占めているが、この1年間で10代の利用者数が約2.5倍の増加をみせている。新たな利用者層の台頭によりPIX活用ニーズはさらに多様化し、それに基づき機能やサービス、その利活用方法が漸次変容していくことは、これまでにもみられたPIXの展開が証明している。

犯罪の手口変化、夜間は上限も

一方、PIXを悪用した犯罪もその普及に伴い急増している。昔から中南米諸国で頻発していた電撃誘拐（もしくは特急誘拐）もその形を変えた。かつては被害者を車に連れ込み、銃器で脅してキャッシュカードやクレジットカードの暗証番号を聞き出したり、ATMに被害者を連れて行き現金を引き出させたりするなどの手口が主流だったが、現在はそれが携帯一つ、PIXを通して可能になってしまった。最近では誘拐というような大掛かりな犯行ではなく、人通りの少ない通りにオートバイに乗って強襲し、路上で銃器を突きつけ携帯を出させ、その場でPIXを使って送金させて去っていく。白昼堂々の強盗も可能で、傍目にはただ立ち話をしているように見えなくもなく、車道を車が気付かず去っていくことも少なくない。

また、銀行員に扮した詐欺グループが

被害者からPIX取引に必要な情報を聞き出し即座に送金させたり、偽の口座に紐づくPIXキーを使った請求書を被害者に送り、QRコードなどで送金させたりする詐欺被害も増加している。即時決済のため、不審な入金を銀行側で監視して取引を留める機能が働かないことが問題で、取引時間が十数秒で完了することが裏目に出てしまう形になっている。ブラジル中央銀行はこれを受け、夜間での送金額上限を設定するなどの対策を講じたほか、国内の各銀行によってPIXによる詐欺や損害を対象にした保険サービスも提供され始めている。

しかしながら、金融包摂の観点で、クレジットカードやデビットカードを持つことができなかった市民の金融サービス拡大を行ったことはPIX導入がもたらした大きな貢献である。ブラジルではフィンテック分野以外にも、ライドシェアなどのモビリティ分野や遠隔医療などのヘルステック分野において、日本と比べても新たな技術やサービスの普及が進み市場が成熟しつつある。新しいものが出てきたときに新しい規制や規則を作ること柔軟に対応するというブラジルの素地が大いに関係しているように思われる。ここ数年でのPIXの短期間での普及により、ブラジルのオンライン販売市場が今後数年間、年間20%のペースで拡大する予測データも発表されており、市場や人々の生活は今後さらに変容するだろう。その生活様式の変容が、多様な社会アクターを巻き込みつつ社会全体をさらに好循環させていくような変化であることを期待する。

一明日の日本を考える一

2070年、日本の総人口約8,700万人に 占める外国人の割合、10%超へ 外国人との共生が不可欠な時代に！



藤川 義人
(あいおいニッセイ同和損保
マーケット開発部参与、
日本ブラジル中央協会理事)

外国人との共生なくして 成り立たない社会に

国立社会保障・人口問題研究所が公表した内容によると日本の少子高齢化は一段と加速、50年後の2070年に総人口が8,700万人と現在の約7割まで減少、高齢者割合は39%程度となるほか、外国人が占める割合は10%以上にまで増加するとしている。また、令和4年10月に出入国在留管理庁が発表した資料では、令和4年6月末現在における在留外国人数は296万1,969人となり、前年末(276万635人)に比べ、20万1,334人(7.3%)増加している。国籍別の順位は以下のとおりとなっている。

	国籍	人数	構成比	増加率
1	中国	744,551人	25.1%	+3.9%
2	ベトナム	476,346人	16.1%	+10.0%
3	韓国	412,340人	13.9%	+0.6%
4	フィリピン	291,081人	9.8%	+5.2%
5	ブラジル	207,081人	7.0%	+1.1%

(出典) 出入国在留管理庁 2 国籍・地域別

在日外国人コミュニティの 現状と課題

現在、日本では外国人コミュニティが急速に拡大し、町の様子も変化してきている。池袋では中国人やバングラディッシュ人、川口では中国人、高田馬場ではミャンマー人、韓国人が多かった大久保では最近ではインド人やペルー人、西葛西ではインド人、神奈川県の大和周辺にはベトナムやカンボジアの人々のコミュニティが存在している。また、全国的に東南アジアからの技能実習生や特定技能外国人が急速に増加している。

これらの外国人が日本で生活する上での困りごととして以下のことが挙げられ、環境改善が急がれる。

- ◆言葉・文化・ルールの違い
- ・役所の手続き、職場のルール、ゴミ出しのルールなど
- ・レストランなど外国語のメニューが少ない
- ◆食事の問題
- ・ビーガンやベジタリアンなど
- ◆交通手段

- ・特に首都圏の地下鉄など複雑
- ◆銀行・不動産関連
- ・日本に来てすぐは銀行口座を作ることができない
- ・クレジットカードの作成が難しい
- ・外国人入居可の賃貸物件は全体の10%程度
- ◆ビザ、在留資格
- ・手続きが煩雑で時間がかかる
- ◆緊急時の対応
- ・母国語が通じる病院が少ない
- ・災害時の避難所では日本語のアナウンスしかない
- ◆Wi-Fi
- ・日本では無料 Wi-Fi 環境が少ない

外国人との共生を急がないと 日本に来なくなる？

日本は失われた30年で経済が停滞、給与は横ばいだがその間諸外国の給与は上昇している。平均賃金で見ると日本の賃金水準はG7の中で下から2番目だ。オーストラリアの最低時給は日本円で約2,000円であり、東南アジア諸国の給与水準も急速に上昇している。

加えて円安の問題だ。日本で稼いだ給与を母国に送金する際に大きく損をする。また、外国人が日本で生活する上での課題解決を急がなければ、将来的に日本は選ばれない国に転落する可能性がある。

在日日系ブラジル人 コミュニティを支援しよう ～まずは身近なことから始めよう！～

東南アジアからの技能実習生・特定技能とは異なり、日系ブラジル人は両親の一方もしくは両方が日本人にルーツを持つブラジル人であるが、1990年に日本の出入国管理法が改正され3世までの日系ブラジル人とその家族を受け入れることを始めると、日本の高収入に着目した多数の日系ブラジル人が日本へ出稼ぎにくるようになった。

年々増加してピーク時(2007年)には32万人を突破、その後リーマンショックで大きく減少することとなったが、現在約20万人となっている。主に愛知県・静岡県・群馬県に集積して製造業に勤め、その地域にはブラ

ジル食材スーパー、レストラン、スポーツジム、中古車販売店、在日ブラジル人学校等のコミュニティを組成している。

在日ブラジル人学校は国内に約40校存在し、小学生から高校生までが同じ校舎で学んでいる。日本の学校と異なり生徒からの授業料や地域の寄付等で運営している小規模学校が多く、元々経営的に苦しかったうえに新型コロナウイルスの影響も受け、生徒数が減少するなど厳しい環境にある。

まずは身近な日系ブラジル人の子供たちを支援できないかと考えた弊社としては、在日ブラジル人学校ではベルマークのことを知らずに取り組んでいない学校が多数あることから『誰もが簡単に取り組める』ベルマーク収集運動を昨年より展開してきている。このベルマークキャンペーンのイメージキャラクターはブラジル人に馴染みのあるマウリシオ・デ・ソウザ・プロダクションズのモニカ&フレンズを採用したが、駐日ブラジル大使館も全面的にサポートしている。

当協会の理事を拝命した私としては、日本ブラジル中央協会の会員の皆さまのご協力を是非ともお願いしたい。駐日ブラジル大使館経由で在日ブラジル人学校へ寄付してはどうか、というのが具体的なアイデアである。



ブラジル映画 心に残るワンシーン 『Alguma Coisa Assim』 (2016)



宮下ケレコンえりか
(ブラジル映画愛好家/
元ブラジル映画祭実行委員)

「ブラジル映画祭 2007」で上映された短編、『青い夜(原題: Alguma Coisa Assim, 2006)』を覚えている方はいるだろうか? 同性に惹かれる自分に気づき戸惑うカイオと、そのカイオを異性として意識し始めたマリ。大都市サンパウロの夜の街でそれぞれの思いを抱える17歳の二人を主人公に、エズミール・フィーリョが脚本を書きマリアナ・バストスとの共同監督で、カンヌ映画祭批評家週間脚本賞を受賞した作品だ。

エズミール監督の作品には、2011年に日本で劇場公開された『名前のない少年、脚のない少女』がある。最近ではNetflixオリジナル作品『Boca a Boca (2020)』を手がけ、シリーズ構成、チーフライター、チーフ監督をつとめている。ローカルな感覚とグローバルな視点で普遍的なストーリーを語る手腕が見事な、ミレニアル世代の才能溢れるブラジル人シネアストだ。

そのエズミール監督の初期の短編。原題の“Alguma Coisa Assim”は直訳すると“そんな感じの何か”。友達とも恋人とも違う、カイオとマリの二人のストーリーには、実は“その後”があった。同監督&同キャストで、7年後に二人が再会する短編『Sete Anos Depois (2013)』が撮られ、10年後には1作目と同じタイトルで長編『Alguma Coisa Assim (2016)』が撮られているのだ。アンドレ・アントゥネスが演じるカイオと、カロリーニ・アブラスが演じるマリのリアルな変化を目の当たりにして、観客も、二人と10年越しの再会を果たしたかのような気分になる。

――人がそれぞれに向き合うテーマも、“思春期の自分自身の発見”から、“結婚”、“妊娠”へと、人生のフェーズを追って変化していく。そしてそこには「性的指向や性自認」や「女性の権利」といった、まさに現代的な問題意識が盛り込まれている。例えば、2011年にブラジル連邦最高裁判所が同性カップルを法的に承認したが、2年後の『Sete Anos Depois』でカイオと同性パートナーとの結婚が描かれ、時代の流れがリアルタイムで作品に取り込まれている。

2016年の長編『Alguma Coisa Assim』では舞台がサンパウロからベルリンへと移される。ベルリンで暮らしているマリを、研究のためにベルリンにやってきたカイオが訪ねるという設定だ。同性婚を選んだカイオとは対照的に、結婚制度に懐疑的なのはマリの方だ。自由奔放に生き、性にも開放的なマリ。エズミール監督は、作品の舞台となる都市に実際に住んで脚本を書くという。その場所に住むことで登場人物の心情や行動のイメージが湧き、また、どんな風景を選び取ってスクリーンに映し出すかまでの細部を作り込めるからだそう。

今回もベルリンに住んで脚本を書いたエズミール監督と、共同脚本&監督のマリアナ監督の、登場人物の内面を描き出す脚本力と映像センスは“ブラジル映画”という括りに収まらない。そしてアンドレとカロリーニの自然体の演技。それら全てが幾つものシーンを特別なものになっている。中でも際立つのは、マリが遠く離れた母親に電話をかけるシーンだ。母親役は、声だけの友情出演をしたベテラン女優のヴェラ・ホルツ。制作裏話によると

このシーンではセリフは用意されず、ヴェラが母親役で電話に出ることだけがカロリーニに告げられて、ぶっつけ本番のワンテークで撮られたという。

本作が扱う一つのテーマは「女性の個人の自由」で、取り分け女性の「性的主体性」と「合意に基づく性行為から至った妊娠において、妊娠を継続するかしないかを決める自由」が描かれるが、妊娠が分かった後マリが声を聞きたくなるのは母親なのだ。

背景の説明になるが、舞台となるドイツでは人工妊娠中絶は合法だ。映画が描くように、医療機関を受診後「早まった決断をしないように」という理由で3日間の考慮期間が設けられているが、産むか中絶するかは女性本人が決定する。“配偶者”の同意も必要ない。

これがブラジルだったら…と考えが巡る。「出産による母体への危険」や「レイプによる妊娠」や「胎児が無能症」の場合を除いて人工妊娠中絶が禁じられているブラジルを舞台としていたら、マリの妊娠への向き合い方は全く異なっていただろう。前述の場合を除いた中絶が法律の上で「犯罪」と位置付けられているブラジルでは、合法的な中絶を選ぶ自由はないからだ。

舞台をブラジルからドイツに移すことで焦点が当てられたのは、女性の人生とからだの決定権についてだろう。国の法制度やイデオロギー、宗教的信条や周りからのプレッシャーに介されない状態で自己決定すること。マリは、安全で合法的な中絶の選択肢を前に、生命を与える／与えない、どちらを選ぶのか。3日間の考慮期間から逃げることはできない。決めるのは自分でしかないのだから。

在伯福島県人会 会長になった

ブラジル福島県人会は将来大きくなる

県人会は何のためにあるのかと疑問を付けたことがある私がブラジル福島県人の会長になった。リベルダーデ区に1980年代に建てられた県人会館、その中には建築当時に寄付をした方の名札が並んでいる。よく見ると祖母「佐藤トミ」の名札が有った。もう80歳を超えていたお祖母ちゃんが誰のために寄付したのだろう。自分のためではない、そして若くて亡くなった父のためでもない。やっぱり孫か曾孫のためだろう。

父はブラジル生まれで祖父は福島の新井町出身者である。母の家族は福島の浪江町に住んでいた。

三春町へは二回行った。2016年に初めて福島に行った時は親戚の住所が分からず、祖父の青年時代に住んでいた町をただ見たくて行ってきた。2019年には1923年に移住したお祖父ちゃんが青年時代まで住んでいた三春の住所は分かっていたが、実際、96年後、同じ家が有るかも分からず、フェイスブックで知り合った福島県田村郡に住む方が私の話を聞いて自分がいつも通る所だから一緒に探しましょう、と心強い事を言ってくれた。一度も会ったことの無いブラジル生まれの私をメッセージで連絡を取って車で連れて行ってくれた。福島の方は凄く親切だと思った。

幸いお祖父ちゃんの住んでいた家にはまだ親戚が住んでいた。そこで教えてもらった近くに住む94歳のお年寄りの家を訪ねると、その人の記憶はとてもしっかりしていて、「南米に渡った従弟がいるという話は聞いている」と語ってくれた。とはいえ、その人も実際の祖父と会ったことはないというので祖父の写真を見せると、「やっぱり似ている」と言って佐藤家のお墓へ連れて行ってくれた。私のお祖父ちゃんは日本へは戻らずブラジルで亡くなり父は日本へ行くこともなく早く亡くなった。だからブラジルから三春へ行ったのは私だけであった。

昔の人と「ふるさと」

お祖父ちゃんたちが何故県人会を創立したのかを考えるとやはり福島県との繋がりを強めたかったのだと思った。太平洋戦争の前は日本へ帰ろうと思っていたのだろうが戦後帰れなくなり、自分の故郷の大切さが解ったのだろう。だから県人会は自分のためではなく、次世代のため、将来への投資だろう。ブラジルで生まれ育っても日本に興味を持ち日本の文化から学んでこちらの社会で活躍してほしいからなのでしょう。つまり自分の故郷を忘れてほしくなかったのだ。

ブラジルでの生活がまだ大変だった時代に、日本からの移民たちが県人会館を建てようと努力したから今の県人会があり、理事



◀ブラジル福島県人会館



佐藤フランシスコ紀行
(福島県人会会長)

会やメンバーたちのボランティアとしての活躍によって福島県の名前、そして名物の喜多方ラーメンなどの宣伝を続けることができた。私たち以降の世代もこれからもっと頑張らなくてはいけない。日系人として距離的に遠い日本との関係を無くしてはいけない。ブラジルから沢山の留学生が日本で学んでほしい。

ブラジルでもグローバリゼーション的な考えを持っている人が増えている中、私は各国の文化の特徴と言葉は残すべきだと思う。だから日本の歴史を教えている。世界中が個性を無くして同じになったら面白くないと思う。

2023年度ブラジル福島県人会の活動



◀「福島の歴史」講演会

2023年県人会の目的はやはり会員を増やすことだ。沢山の人が県人会の事業に参加して、その中で才能のある若者には福島県へ留学生として行ってほしい。そして福島県との繋がりを強めて行きたいと思っている。

その目的の第一事業として2月4日にサンパウロの県人会館で行ったのが私の「福島の歴史」講座であった。65人が参加した。半分非日系人の方が福島の歴史に興味深く最後まで聞いて下さった。

3月4日、福島県人会が初めての「浴衣で散歩」を行った。目的はサンパウロ市リベルダーデ区の観光客にもっと日本のお祭りの雰囲気を感じてもらおうため、と同時に福島県人会が活躍していることを見てもらうため。福島県人会の女性六人に浴衣を着てもらった。第一副会長を含め四人は元福島の県費留学生、最年少は副会長の14歳の娘。男性用の浴衣が無かったのでボランティアの青年二名と理事会の二名と元留学生のお父さんには県人会の法被を着てもらった。

4月1日、日本への留学をテーマにした講演会を行った。講演会は午後と午前、二回同じ内容を七人の講演者が話した。県人会の会場に約200人の若い方が来て盛り上がった。この日4人の青年が福島県人会の会員になった。その他県人会でボランティア活動をしたいと言う人も数名でた。これから大変だが楽しみである。



▲浴衣で散歩、リベルダーデ区



戸田建設の ブラジル風力発電



酒井 勲
(戸田インベストメント・ブラジル社長)

はじめに

戸田建設と聞くと、本誌を読まれている方の多くはConstrutora Toda do Brasil（ブラジル戸田建設、以下TBC）を思い浮かべるだろう。この寄稿にて、TODA Investimentos do Brasil（以下、TIB）という会社を知ってもらい、その子会社がリオグランデ・ド・ノルテ（以下、RN）州で風力発電所を所有し、グリーン電力の売電ならびにグリーン電力証書を発行しているということを周知する機会になれば大変有り難い。

渡伯に至る経緯

今から遡ること6年余、東京五輪を2020年に控え、文字通りオリンピック景気の如く日本の建設市場は案件に溢れていたのが、つい先日のごとくに思い起こされる。

当時、首都圏の支店にて民間営業をしていた自分にとって（いや、業界関係の皆が感じていたと思うが）、それはアフターオリンピックに業界が直面する現実を半ば分かっているなかにおいては、不気味な好景気に感じた。そんな思いを日々感じていた折、2016年末、「自己発働型社員」という、各支店長から推薦された若手・中堅社員が一同に介し、中長期の自社の在り方について考え、自身で今から何をすべきかを経営層に提起する、というセッションに参加する機会が与えられた。

上述のような思いを抱いていたこともあり、五輪後の国内建設市況の縮小と受注競争が激化するなか、持続的な成長をしていくためには、「本業以外の事業」・「海外」に目を向けざるを得ない。そのための基盤を整えるのは、向こう3年の好景気を控えている今だけだ、と生意気ながらプレゼンをしたのを覚えている。

何となく想像していたことではあったが、プレゼンのほとぼりが冷めぬ2日後には、推薦してくれた支店長から「おまえ、何を言ったんだ」と半分呆れ顔、半分応援してくれているような表情で言われ、海外の新規事業を企画する新設課への異動がほぼ決まっていた。

TBCへの感謝と新現法設立

異動後は日本での半年間、どの国で何の事業をするのか、外資規制や市況調査を日本で出来る範囲のFS調査をしていたものの、「伯国で再エネ」という選択肢は最初からあり、SDGsの取組みの一環としても最優先の候補であった。また、1973年のTBC設立から2023年で半世紀、という節目を控えていたこと、その中で、伯国で事業を行う厳しさを長年に亘り痛感していたことも、伯国で本業以外をする必要性を問う大きな要因であった。

ちょうど、本稿を寄せるにあたり、TBCのブラジル企業への売却のリリースがなされたが、数年来、伯国の経済動向における事業舵取りで、売却や撤退の検討を余儀なくされていた。

いま思うと、自分はその真っ只中にいた。

2018年1月、初めて伯国に渡り現地FSを実施、その3ヶ月間での手応えを素に駐在を決意、まだ事業化には程遠かったため、TBCへ出向という形でプロジェクトの掘り起こしを開始した。事業化に際しては、新たな決意ということもあり、自分の中ではTBCとは別会社で新現法を立ち上げ、人財の掘り起こしから行っていく所存であった。

とはいえ、TBC事務所の一角を借り、同じ日本からの駐在員や現地スタッフに励まされながらの環境下であったからこそ、駆け抜けられたのは言うまでもなく、当時の駐在員やその家族、TBC社員への感謝は筆舌に尽くしがたい。

また、TBCが築き上げてきた信頼があつてこそ、新規事業でありながらも、伯国の風力関係者が耳を傾けてくれたのだと思っ

発電所運開と今後

駐在後、約1年間のプロジェクト発掘・事業企画を経て、2019年末の事業承認、2020年1月の新現法設立と、こころまでは順調であったが、現法設立（本邦から資金送金）後にコロナ禍に突入、コロナ真っ只中での風車設備他の発注、発電所建設と、その後の2年間は怒涛の如く過ぎ去った。

特に、日本への退避期間中は、身は日本にあれども、気持ちは伯国に現法スタッフと共にあったと言える歯痒い思いをしたのは、同じコロナ禍を過ごした駐在員は皆同じ気持ちであったと思う。そのような中で作り上げた発電所も、間もなく稼働2年を迎えるが、24時間365日、何事もなく働いてくれている風車8基も大事なTIBスタッフと思わずにはいられない。

自分を含め社員6名とまだまだ少人数の会社だが、現在、同じRN州にて2期発電所を開発中であり、少しずつではあるが会社の体制も整ってきた。今後は、陸上風力に限らず、異なる発電源の再生可能エネルギーや次世代燃料にも注視し、半世紀にわたりお世話になった伯国に、建設とは異なる事業領域でも貢献していけるような活動を戸田建設グループとして継続して参りたい。

最後に、事業化に際し、ベンチマークとして幾度とない訪問や情報交換を快く受け入れて下さった、Honda Automóveis do BrasilとHonda Energyの皆様、一緒になって事業化に粉砕砕身してくれたTIB社員・コンサル関係者にこの場を借りて御礼申し上げます。



生成AIに関する ブラジル法上の論点



柏 健吾
(TMI 総合法律事務所
日本法弁護士
現在ブラジルで勤務)

1. 生成 AI

人工知能 (AI) という概念は数十年前から存在するが、近年、生成 AI (ジェネレーティブ AI) という概念が大きな注目を集めている。生成 AI とは、サンプルデータをもとに、一定の指示 (プロンプト) に従い画像、文章、音声、プログラムコードなどさまざまな創作物を自動的に生成することのできる人工知能をいう。OpenAI 社がチャット形式の AI である ChatGPT を発表したことで、生成 AI が専門家ではない一般の間でも一気に浸透した。一方で、AI の活動が新たな法律問題を生じさせている。たとえば、AI が生成した創作物に著作権が生じるのか、AI が生成した創作物が第三者の権利を侵害した場合に誰が責任を負うのか (これは自動運転の観点でもよく議論されている) などである。既存の法律のほとんどが AI を想定した内容とはなっていないため、AI にまつわる論点を既存の法律により解決することは難しい。そのため、ブラジルを含めて多くの国で AI を取り扱う新しい法律の制定が議論されている。本稿では、生成 AI に関してブラジルで議論されている法律上の論点を紹介する。

2. 著作権法

(1) 誰が著作権者となるか？

AI が生成した創作物に関する法律上の論点として、AI が生成した創作物に著作権が発生するか、そして、著作権が発生するとして著作権者は誰かという点がまずあげられる。

ブラジルの著作権法 (1998 年法 9610 号) では、コンピューターが生成した創作物の著作権についての規定はなく、また、この点に関する裁判例も現時点ではない。著作権法では、文学、芸術又は科学の創作物を創作した自然人 (Pessoa Física) を著作権者としており、また、著作物は「精神的創作」(criações do espírito) とされていることから (AI に精神はないことから)、AI は著作権者にはなれないと主張する専門家もいる。一方、AI による創作物生成の過程で自然人が何らかの形で関与していることから、それを保護すべきと主張する専門家もいる。現時点ではこの点に関する通説や裁判例はない。

(2) 他者の著作権を侵害するか？

著作権法との関連でもう一つの大きな論点は、AI が生成した創作物が第三者の著作権を侵害するか否かである。まず、ブラジルの著作権法上は、他者の著作権を AI に読み込ませることに関する特別の規定はない (日本の著作権はこの点を明示的に認めている)。アメリカでは、他者の著作権を AI が読み込むことがそもそも可能かについてすでに裁判で争われているため、ブラジルでも、今後、AI が無許諾で他者の著作物を読み込むこと自体が裁判で争われる可能性はある。

次に、生成 AI は、既存の文章、画像、音楽などのデータをもとに新たな創作物を生成することから、生成された創作物が既存の著作権を侵害することは十分考えられる。たとえば、小説の要約を作成させた場合には翻案権や同一性保持権の侵害となる可能性がある。一方、生成 AI が生成した創作物が結果的に第三者の著作物に類似することも起こり得る。この点の取扱いも現時点では明確ではなく、類似していること及び何らかの形で他者の著作物に依拠していることを理由に著作権侵害と判断される可能性もある一方、いわゆるフェアユースなどの根拠に基づき他者の著作権を侵害しないと主張する専門家もいる。

3. 特許権及び商標権

ブラジルにおいてある発明が特許として登録されるためには、日本と同様に、新規性、進歩性及び産業上の利用可能性が必要となる。この点、AI が生成するコンテンツはすでに存在する情報やデータに依拠するため、上記の要件のうち「進歩性」が認められるのは容易ではないと一般には言われている。なお、いずれにしても、ブラジルの産業財産庁 (INPI) は AI 自体が発明者となることは認めないことを発表している。なお、商標も同様に、AI 自体が商標権者になることはできないと解されている。

4. 個人情報保護法

生成 AI は、個人情報保護法 (Lei Geral de Proteção de Dados Pessoais) との関連でも問題になり得る。たとえば、営業ツールを作成する目的で、ChatGPT に個人情報 (取引先担当者の氏名やメールアドレスなど) を入力した場合、かかる行為は第三者 (OpenAI 社) に本人の許可なく個人情報を提供していることになるため個人情報保護法に違反する可能性がある。また、ChatGPT のようなサービスを提供する会社自身も、個人情報保護法に違反する形で個人情報を使用しないよう留意する必要がある。ChatGPT に関するブラジル政府の見解は発表されていないが、たとえば、イタリア政府は、ChatGPT による個人情報の取扱い方法が明確ではないため同サービスのイタリア国内での利用を一時禁止していた。

5. AI に関する法案

現在 AI に関していくつかの法案が審議されている。たとえば、2020 年法案 21 号は、AI に関する法的枠組み (Marco Legal de Inteligência Artificial) と呼ばれ、AI の開発と適用のための原則やガイドラインを定めることを目的としている。また、2023 年法案 1473 号は、AI による他者の著作権侵害を防止するための対策を企業に課すことを目的としている。

ブラジルの エネルギーセクターにおける トレンド及び課題



ジョダス・フランセリ
(KPMG ブラジル
アドバイザー
パートナー)



天野義仁
(KPMG
ブラジルジャパン
デスク責任者)



三上智大
(KPMG ブラジル
ジャパンデスク
マネージャー)

風力発電

ブラジルの風力発電は、大きな伸びを示しており、EPE のデータによると、ブラジルの風力発電の発電量は 2021 年に 20.7GWh に達し、前年比で 21%増加している。また、EPE の観測では風力発電は 2031 年に 31GWh の発電量に達し、総発電量の 11%を占めると予測されている。

現在の風力発電は陸上発電が主流であるが、洋上風力発電も将来性があるとされ、EPE による 2021 年の調査でブラジル沿岸に約 700GWh を発電するポテンシャルがあるとされている。近年、技術の進歩により投資コストは漸減しているものの、ブラジルにおける設備投資コスト (9,800 ～ 18,600p/KWh) は高い水準にあり、経済的競争力の課題から現時点で導入されることは難しいとされている。

さらに、現在の法律では洋上風力の開発を行うための法整備が遅れており、民間事業者が洋上で事業を行うための入札プロセスのや、プロジェクトの開発に関する規制が今後制定されることが期待されている。その意味では、2022 年 2 月 25 日に公布された政令 10.946/2022 は、洋上利用のコンセッションに関するプロセスを制定しており、先述の課題に対する解消に向けた一歩となっている。

送電網

ブラジルの送電網は、拡張が続いており、2021 年時点の総延長距離は 15 万 6 千 km と、5 年間で 20%増加しているものの、電力の供給システムの安全性に影響を及ぼす可能性がある課題を抱えている。

PDE 2031 のシナリオ分析では、増加する発電量に対応する送電網の構築に 1,007 億レアルの投資の必要性が指摘されており、そのうち送電線に対し 699 億レアル、変電所の新設に対し 308 億レアルが試算されており、その結果、送電網を 2031 年までに 3 万 5 千 km 拡大することが可能と観測されている。

最後に、電気系統の耐用年数の満了も重要な課題として挙げられる。送電網の資産は、法律により定められた減価償却 (法定耐用年数) の対象となり、将来的に更新が必要となる資産の総数を測る重要な指標である。電力庁が実施した 2022 年の意見公募 5 号によると、送電網の 60%が 2031 年までに法定耐用年数を迎える見積もられており、その更新に 350 億レアルの投資が必要であるとされている。

◆ 最後に

本稿で取り上げたトレンド及び課題は、ブラジルのエネルギーセクターが変化していることを示唆し、また変化に対応するための長期的視点に立った公共政策の重要性を示している。ブラジルは電力市場の自由化、エネルギー供給源の多様化、クリーンかつ持続可能なエネルギー源の追求に取り組んでおり、今後も民間を主体とした同セクターへの投資を促進するための政府の取り組みが期待される。

太陽光

ブラジルの太陽光発電は、近年大きな伸びを見せている。2021 年には太陽光発電は 16GWh に達し、前年比で 56%増加し、総発電容量の 2.5%に相当する。さらに、EPE の観測では 2031 年までに太陽光発電の発電量は 45GWh に達し、国の総発電容量の 16%を占めるとされている。

これまで行われた政府による支援は、太陽光発電が直近で目覚ましい成長を遂げている要因の一つである。その一例として、2022 年 1 月の法律 14.300/2022 がある。当該法令では小規模な分散型発電に関する法的枠組みを制定しており、また 2023 年 1 月 6 日までに登録された発電プロジェクトについては、2045 年まで配電網の使用料が免除され、さらに配電網を通して売電されるエネルギーの補償に関する規則も定義されている。また、最近の動きとして、2023 年 3 月 29 日に政令 11.456 号が公布されており、太陽光発電パネル製造用部品の輸入税、IPI、PIS/COFINS の税率が 0%となる措置が設けられている。

PDE 2031 において、太陽光発電は、その経済上の競争力から、今後 10 年間に大きな成長が見込まれる再生可能エネルギーとされている。同調査の試算によると、太陽光発電の 1kW あたりの設備投資額は 2,500 ～ 5,000 レアルであり、風力発電 (3,200 ～ 5,500 レアル) 及び天然ガス (3,400 ～ 5,900 レアル) の 1kW あたりの設備投資額を下回るとされる。

一方、太陽光発電市場の拡大には新たな課題もある。時間帯によって変動する発電量は電力の安定的供給の不確実性と高め、また太陽光発電所の建設期間 (最長 3 年) と送電線の建設期間 (約 5 年) に差があることで、近年急増する発電量に対応する適切な送電網の増強が困難となっている。

在日外国人の子供たちへの オンライン日本語教育



梅本祥子
(一般社団法人光 JS みらい代表)

（光 JS みらいは、国内在住の外国にルーツのある子ども（以下、外国ルーツの子ども）への日本語授業やイベント・セミナーを行っている。今回は、なぜ私がこのような活動を始めるに至ったのかを書かせていただく。

3年前まで、都内の小学校で教員をしていた。勤務校は、大使館や外資系企業が周りにたくさんある地域の小学校。実に多様な外国ルーツの子どもたちが在籍していた。来日もない外国籍の子。同じく外国籍だが、幼い時に来日あるいは日本で生まれた子。日本国籍だけど、海外で生活した経験が長く、



日本語の環境に慣れていない子。インターナショナルスクールから公立小に編入し、日本の学校に慣れていない子…。当時、通常学級の担任だった私は、いち学級担任としてそれぞれの子どもたちにできることを試行錯誤しながら行っていた。

ある年、ブラジルの小学校で働くチャンスを得た。実は、教員になる前に数カ月だけ、ブラジルのエスコリーニャで保育ボランティアをさせてもらったことがあった。その時にブラジルの魅力にハマリ、ずっとブラジルの小学校で働きたいと思っていた。念願叶って派遣された現地の小学校では、日本語・日本の音楽（音楽）・日本の踊り（体育）の授業を担当した。ここでの時間は初めて尽くし！日本語の授業もその一つだった。日本の公立小学校で通常学級の担任として働いているだけだと、日本語を教える機会はない。国語の授業とは全然違う日本語の授業のために、ゼロからの教材準備は大変だった。それでも、日本語を身に着けることで子どもたちの可能性が大きく拓けることを実感し、日本語教育に大いに関心をもつようになった。

帰国後、以前いた小学校にて復職。ブラジルに行く前とはまた違った考えをもって、外国ルーツの子どもたちと接するようになった。授業外の時間にも、彼らに必要なサポートはできる限りしようと努めた。しかし、担任教師だけがそれをしていくのは難しいと感じた。これは私だけの問題ではない。今や全国の学校の課題だ。教員も外国ルーツ家庭も互いに歩み寄れる環境が整っていったら…そんなことを現役教師としてずっと感じていた。

その後、ブラジルの教育現場に戻りたい気持ちが抑えられず、退職の道を選んだ。しかし、退職したのは2020年3月末。当時、世の中は未曾有のコロナ禍。緊急事態宣言が発令され、海外への渡航はできなくなった。計画は頓挫し、ノートとなってしまった自分。全ての予定が無くなり暇な4月頭、ブラジル人の友人の家に遊びに行った。そこで「時間があるなら日本語を教えなさい！」と言われた。これまで日本語を教えてきたわけではないし何もできないと答え、「そんなことは関係ない！学校が臨時休校になって日本語を使う環境から切り離されてしまっ、日本語を忘れてしまいそうな子たちがいるの。小学校の先生をしていただから出来るでしょ！」と、半ば強引に引き受けさせられてしまった。これが、私の人生を大きく変えることになるとは、この時は全く想像していなかった。オンラインで日本語を教えることになり痛感したのは、「学校にとって“特別な配慮がなくても大丈夫な家庭”であっても、それぞれの家庭がとても努力をしているからこそ、学校生活についていけない」ということ。担当の生徒の保護者から、日本語の授業についてはもちろん、授業以外のこともたくさん連絡が来た。コロナの影響で分散登校が行われるという学校のプリントの写真と共に「明日、うちの子は何時に登校して、何時に帰ってくる？給食はある？来週も同じ？」、就学援助金について「これは、うちが払うもの？それとも、もらえるもの？申請は？」、宿題の音読カードについて「何をしなければいけないの？」、…たくさんのプリントの写真が日々送られてきた。普段の生活の中でどれだけのサポートが必要なのか、小学校教員の頃には見えていなかった部分もたくさん見えてきた。海外生活経験・教員経験を生かして、そういうサポートができる組織を作っていけないか。教員の時に漠然と考えていたことが、全てつながった瞬間だった。そうして友人たちと一緒に立ち上げたのが、光 JS。その後、紆余曲折を経て、現在は（光 JS みらいという団体で定住外国人家庭サポートを行っている。

今、ブラジルはじめフィリピン、ボリビア、シンガポール、アメリカのルーツをもつ子どもたちが、オンラインで日本語の授業を受けている。完全担任制のため、各担任がその子に合った内容を考え、毎週授業を行っている。また、保護者向けのイベントや子どもも参加できるイベントなども少しずつ始めている。

『子どもへの教育は、家庭との伴走』だと、私は考えている。日本語授業やイベントなどを通じて、家族みんなが笑顔になれるようなサポートを日々考えながら活動を進めていきたい。



ブラジルに暮らして ブラジルは第二の故郷

ブラジルで本格的に暮らしはじめて12年目になるうか。未曾有の東北大震災の起きた2011年4月に、故国離れがたい思いを強く抱いて発った。毎年、年末に一時帰国していたが、やがて、サンパウロが第二の故郷に思えるようになった。再び戻ってくるサンパウロは、緩やかな時間が流れ、満足気でにやりとした微笑みの人々、人間臭い匂いが漂う、雑然とした活気ある町の営み、いつも何か斬新な魅力を以て迎えてくれるのである。

サンパウロは今、秋。拙宅の高い塀の周りに数年前から Cipó Garlic Mansoa alliacea、俗にシッポ・チ・アーリオを植えた。さすがブラジルの植物は生殖が早い。今では、塀を這い、高木に枝を絡め、咲き始めは濃いライラック、それがピンクや白の明るい色調に変化していく。トランペット形の3色の花はひと束のブーケになり、灰色の塀を飾るのである。この花は、アマゾン地域で生息し、インフルエンザ、てんかん、発熱、頭痛、昆虫やコウモリの忌避剤として使用されているという。「ニンニク」という名がついている通り、葉を二つに割ると強いニンニクの香りがする。絢爛豪華に咲き誇るこの花を見上げるとその向こうに広がる空が、一段と青く高く感じるのである。

とある小さな町の一角でさえ、この国の花木の魅惑に憑りつけられるが、ブラジルは発見当初から、続々と欧米諸国から動植物学者、地政学者、画家、博物学者、探検者の波が押し寄せ、国の姿が鮮やかに、詳細に記録され遺された。中でも、特に印象的なのは若きダーウィンのサルヴァドール自然探検時の感動的な著述である。イギリス観測船ビーグル号が南米の正確な経度を計測、確認するために1832年2月29日の真夜中、フェルナンド・デ・ノローニャ島に上陸した。その航海に参加していた若干22歳のチャールズ・ダーウィンは、サルヴァドールの深い森に分け入った。

「島全体がひとつの森であり、木々の枝は幾重にも絡み合っており、その中に這い入るのも難しい。…風景はとても美しく、大きな木蓮の繊細な花に飾られた木々、草のしなやかなこと、奇抜な寄生植物、あらゆる花の美しさ、葉のつややかなで肉厚の緑は、見るものの魂をつかんで離さない」（『ビーグル号航海記』著者訳）。

読むたびに、寒いイギリスを離れて、熱帯の煌めく森に分け入った時のダーウィンの感動で震える心情が伝わってくるのである。

ジャーナリストの旅路

ブラジルとインド「貧しさ」を再考する

岩城 聡
(日本経済新聞ニューデリー支局長)

シュラスコで食べるクッピン。言わずと知れたセブ牛の背中の肉で絶品だが、その同じ肉はインドでは破壊神シヴァの乗り物とされ神聖視されている。食べるなんてもってのほか。だが、そんなインドは世界有数の牛肉輸出国。実は輸出している牛肉の多くは水牛の肉。大切にされているのは瘤牛だけで、インド人曰く水牛は「ただの牛」。ところ変われば、同じ牛でもいろいろ扱いが違うものだ。

ブラジルは遠くになりけり…かの地に赴任したのは2004年だからほぼ20年前。その後、ニューデリーとバンコクに赴任したが、今春まさかの2度目のニューデリー赴任。どうせならサンパウロ再赴任が良かったが、三島由紀夫曰く「インドには行ける者と行けない者がいる」らしい。しかも、ふさわしいタイミングが来たら、インドがその人を「呼ぶ」らしいので、今回の赴任も何か意味があるはずだと日々自分に言い聞かせている。

そんな中、以前より妙に「貧しさ」について思い巡らす時間が長くなった。年内には中国を抜いて世界一の民を抱えるインドに身を置きつつ、「本当にこれでいいのかこの国は？」と思ってしまう。

ブラジルのファベラは独特の怖さがあった。リオの

は「ここが入り口」って感じで分かりやすかったが、サンパウロのそれは、気付くと車で迷い込んでしまっているパターン。肝を冷やしたことは1度や2度ではない。

一方のインドのスラムにはそんな危うさはない。ただただその「貧しさ」に圧倒される。路上生活者が多く、そもそも家がない。家があってもトイレはない。幼児はいつでも排泄できるように下半身は丸出しだ。仕事もない男たちはトランプとガンジャに明け暮れ、女性はどうもな目であたりを見つめている。

「貧困とは、人生の選択肢が極端に少ないこと」——。今、なんとなくそんな考えに行き着いている。

親がなぜあれほど「勉強しろ」とうるさかったのかといえば、きっと人生の選択の幅が広がるからだと伝えたかったのではない。だが、新興国では教育の機会の有無どころか、貧困の世代間連鎖から逃れる術はない。ましてインドではカーストという分厚い壁が立ちちはだかる。インドもブラジルも、グローバルサウスの代弁者として国際社会で振る舞うのは結構だが、為政者はもっと自国内に温かい視線を送って欲しいと願う日々だ。

追悼:ボリス・ファウスト教授 ブラジル史叙述を革新した歴史家

岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）



4月18日、ブラジルの代表的歴史家・政治学者（サンパウロ大学名誉教授）として国の内外で知られていたボリス・ファウスト（1930-2023）が亡くなった。享年92。彼の死を惜しむ追悼記事は、ブラジルの主要紙誌はもとより欧米の主要紙でも掲載されたが、トルコでも大きく報道され、彼の代表作『ブラジル史』のトルコ語翻訳版出版も決まった、という情報に筆者は特別の感慨を覚えた次第である。

この著名な歴史家から様々なことを学んだ筆者としては、彼のいくつかの著作、歴史書、回想エッセイ集をあわせて本棚から引っ張り出して再読（というよりも飛ばし読み）してみた。未読の作品（回想録続編『ある日曜歴史家の回想』(2010)）は今回遅ればせながら熟読することになったが、この自称「サンデー歴史家」の回想録続編は面白くて読みやすく、改めて1940年代から2000年代までのブラジル現代史を追体験することになった。

ブラジルの歴史家とトルコとの関係も含め、彼の歴史著作の一愛読者としてのメモを重ねてみたい。

筆者の学生時代（1970年代）は日本語で書かれた『ブラジル史』を読むことはまず不可能であった。アンドウゼンパチ『ブラジル史』（河出書房1956年）は絶版になって久しく、きちんと叙述されたブラジルの通史なぞ出版物としては皆無であったからだ。そんな時代だったからこそ、サンパウロ大学教授（当時）の斎藤広志（社会人類学者）がブラジルの歴史や社会についての概説書を、今は亡きサイマル出版から続けて刊行した時は、当時の学生は貪るように読んだものだ。『新しいブラジル』（1974年）、『ブラジルの政治』（1976年）、『外国人になった日本人』（1978年）、という“斎藤広志三部作”は、ビジネス関係者も含むブラジル関係者には教科書的入門書と同義であったといつてよい。

1980年代に入ると、ようやく様々な研究者によってブラジル史叙述や翻訳がなされるようになったが、いずれの『ブラジル史』も「帯に短したすきに長し」という感じで、どの歴史書にも不満足であった筆者としては、ブラジル史への理解を深めるにはポ語や英語の原書を読むしかなかった。そんなブラジル史学習途上人であった筆者がボリス・ファウストの歴史書に出会った時、「ようやく真つ当なブラジル



▲ボリス・ファウスト

通史だな」との読後感を抱いたのはいまだに記憶に新しい。もっともファウストの著作で初めて読したのは、『仕事と余暇—移民の歴史』（1997）で、この著書は彼が“ego-história”

と呼んでいるファウスト一族のファミリーヒストリー叙述であった。彼の父方はアシュケナージ系ユダヤ人、母方はセファルディ系ユダヤ人で、いずれも当時のトルコ（現在のウクライナ南部も含む）出身だ。16世紀のイベリアにおける宗教的迫害から押し出されて多くのユダヤ人がオスマントルコへ移住した、というファクトを歴史家らしく詳しく具体例をあげながら解説していく筆さばきはなんとも巧みである。ファウスト（元々の名字FUSS＝ドイツ語で足、を発音しやすいFAUSTOに改名）の父親が最初に移住したアルゼンチンから1920年代にブラジル・サンパウロに転住、商人として家具商から綿花コーヒー貿易商へと展開していくところは写実的文体の効果が出ている。その長男として1930年に生まれたのがボリスであった。

『ブラジル史』（鈴木茂訳、明石書店、2008年刊）について、もしブラジル史の本を一冊だけ選べといわれたら、筆者はこのファウスト『ブラジル史』を薦めたい。従来の“正史”叙述とは違った視点からのファウスト史観があちこちに織り込まれているからだ、紙幅も限られているので、筆者が気に入っている部分を2か所だけ指摘しておきたい。

まずは「日本語版への序」が素晴らしい。刊行された2008年が日本移民百周年だったので、ブラジル日本人移民の歴史を復習しながら、「ブラジル日本人移民を定義するもっとも正確な言葉は「統合」と「同化」です。それは、日本人移民とその子孫がブラジルの社会環境に吸収されたというのではなく、ブラジルの社会・政治・習慣から影響を受けもしたし、それらに影響を及ぼしもしたという意味です。」と説いているが、その背景としてファウスト自身が、日本人移民が大量にブラジルに到着した1920～30年代と同じ時期にブラジルにやってきたユダヤ移民の子（ユダヤ系二世）であったことは指摘するまでもない。

もう一点は、独立前の「地方反乱」のなかでもペルナンブーコ革命とも呼ばれる「1817年革命」の重要性をはっきり述べた歴史書であることだ。

そのさわりの部分を引用しておく、「実現性という側面で見ると、ペルナンブーコから北東部の広い地域に拡大した「1817年革命」の方が重要であった。しかし、「ミナスの陰謀」の重要性はその象徴的な力に由来する。」

青年時代マルクス主義に惹かれたファウストの政治的立場は社会民主主義へと“成熟”していくが、この辺は親友F・H・カルドーゾ（社会学者、元大統領）の知的軌跡と重なり合う。ファウスト歴史作品は今後とも読まれ続ける価値がある、と筆者は考えている。

合掌。



▲『ブラジル史』（ポ語版）

●大豆の豊作が経済全体を牽引

IBGE(地理統計院)が6月1日発表した経済数値によれば、今年第一四半期のGDP(国内総生産)成長率は、前期比1.9%プラス、前年同期比4.0%増であった。この成長率をリードしたのは農業部門であり、同部門の成長率は前年同期比18.8%プラスであったが、なかでも収穫量が前年比25%増となった大豆の豊作が貢献した。一方、工業部門の第一四半期成長率は、前期比0.1%マイナス、前年同期比では1.9%プラスにとどまった。他の部門をみると、前年同期比で、サービス部門はプラス2.9%、家計消費プラス3.5%、公共支出はプラス1.2%となっている。

●ルーラ政権

(1) ルーラ大統領は27日、マルコス・アントニオ・アマロ・ドス・サントス陸軍大將を大統領府(GSI)長官に任命することを確認した。アマロ・ドス・サントス大將は、第2次ルセーフ政権では大統領府武官長を務めた。ボルソナーロ政権では陸軍参謀本部長を務めた。一方、カペリー・GSI長官代行は、新たにGSI職員58名を解雇した。これまでに解雇されたGSI職員は87名に上る。ボルソナーロ

派の一扫が目的と見られる。(4月28日付コレイオ・ブラジリエンセ)

(2) アグリビジネス関係の大型イベント(ラミ最大級)「Agrishow」の主催者は、ボルソナーロ前大統領が開会式への出席を確認したのを受け、ファウスト農相に対する招待をキャンセルした。これに対し、連邦政府は、ブラジル銀行をAgrishowのスポンサーから下ろさせた。そのため、主催者側は、ファウストをイベントの2日目に招待したが、断られた。主催者は30日、「本件に関する反響が大きかった」ことを理由に、Agrishowの開会式は中止すると発表した。ボルソナーロは1日、フレイタス・サンパウロ州知事と共に、サンパウロ州政府がAgrishowと並行して開催したイベントに参加した。その際、7分間に亘ってスピーチを行い、「先住民居留区の画定に関する申請は400件に上っている。ルーラはその全てに応じると公言している。仮にその10%が承認されたとしたら、アグリビジネスの行き場が失われてしまう」と強調し、Agrishowの参加者は、「Mito(神話の男)」コールを交え、大喝采を送った。スピーチの後、ボルソナーロがコンパインの上に上り、伯国旗を上げたところ、感極まった観衆が伯国歌を斉唱する一幕が見られた。(4月29日～5月2日付コレイオ・ブラジリエンセ及びフォーリャ・デ・サンパウロ)

キャンパス・コラム

リオ留学でカリオカに変身？

塚本直希レイ
(東京外国語大学4年生)

どうもこんにちは。私は、リオデジャネイロにある、リオ州立大学(UERJ)にて9か月間の留学を経験した。その生活の一部、私が感じたことを、私の独断と偏見満載で紹介していきたいと思う。

さっそくだが、皆さんはリオに関してどのような先入観を持っているだろうか。カーニバル、暑い、お喋り等々が挙がるかもしれない。少なくとも私は、そのような先入観を持っていたのだが、あながち間違っていなかったことに気づかされる。ワールドカップなど大事なサッカーの試合があると、店という店は閉まっているか、テレビを見ながら気もそぞろに営業している。フラメンゴのホーム、マラカナスタジアムが真横にあった私の大学では、試合前のあまりの交通量に、その数時間前の授業は中止になった。カーニバルについても同様で、その期間は都市がその機能を失い、街が踊り狂う。それを嫌って、リオ外に旅行する層が一定数いることは意外だった。また、カリオカは本当にお喋りである。仲間内でFofoca(噂話)が始まったなら、私は帰るのを諦めたものだ。よっぽどの事でない限り、後に約束が控えていようが、仕事があろうが、フォフォカを

優先する。この文化に始めは、あきれ半分驚き半分、面喰っていた。しかしそれは、ただカリオカが怠慢である訳ではなく、目の前にいる人との時間を大切にしているのだと思うことにしている。この文化に慣れた私は、よく遅刻するようになったのだが、その度に、お前もカリオカになったな、と褒められたのである。

次に、私の学校生活を簡単に説明していく。留学生は、週に3～4回の授業と、外国人用のポルトガル語の授業があるのが一般的だ。ブラジル人学生と同じ授業を受けるので、2年間語学の勉強をした留学生では到底分らない。授業の内容以前に、ブラジル人が高校までに身に付ける一般知識がほぼ全て欠けているからだ。また、最初は黒板に書かれた筆記体さえ読めなかったのである。級友の存在が無ければ、一つも単位が取れなかったに違いない。授業以外では、90円で取り放題の学食、誕生日には学食全体でのお祝い、学生会室での暇つぶし、金曜日のフェスタ、サンバなど、楽しい思い出がたくさんある。このリオでの9か月間は、人生で一番楽しい日々だったといっても過言ではない。

新刊書紹介



◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

『ブラジル文学傑作短編集』

(岐部雅之編)

この短編集には、六名の作家の手になる十二篇の作品が収録されているが、どの短編からも 20 世紀ブラジル（特にリオ）社会の諸相を読み取ることができる。ノルデスチ文学運動の旗手でもあったハケウ・ジ・ケイロスの『白い丘の家』が描く主人公三代の歴史はペルナンブーコ独立運動と繋がっているが、『太陽通りのぼくの家』の作者オリージェネス・レッサの『エスペランサ・フットボールクラブ』はサッカーの魅力と魔力を語る佳作だ。

(水声社 2023 年 4 月 208 頁 2,000 円＋税)

『ダイダロス』(塩崎ツトム著)

第10回ハヤカワSFコンテスト特別賞受賞作の舞台は、1970年代のブラジル・マツグロソ。そこに逃げ込んで秘密基地を設けたナチスの生物学者は、

おかしな人体実験を繰り返す。そんな彼の協力者の一人が日本の敗戦を認めなかった「カチグミ」の残党。彼らを追及するのがレヴィ＝ストロー一番弟子のユダヤ人文化人類学者とナチハンターの医師そして日系ジャーナリストのタティシ。SF というよりも読み応えたっぷりの歴史ミステリー。

(早川書房 2023 年 2 月 376 頁 2,200 円＋税)

『世界の中のラテンアメリカ政治』(宮地隆廣・舩方周一郎著)

はしがきで共著者が本書は「ラテンアメリカ政治の教科書や参考書として使う」ことが可能で、「ラテンアメリカの人々に関わる方の交流を助ける」と自信たっぷりに主張している。ラテンアメリカ政治の新たな概説書。様々なデータも学説もアップデートされており、ラテンアメリカをマクロ視点で学習するには便利一冊。但し、ポピュリズムや左傾化を一括りでとらえる視点が強く、ラテンアメリカ研究の魅力でもある「属人的要素」は排除している。

(東京外国語大学出版会 2023 年 3 月 324 頁 2,400 円＋税)

『タラの歴史』

(E・タウンゼント著、内田智穂子訳)

16 世紀から 18 世紀までの 200 年間全欧州で消費される水産物の 6 割がタラであったから、当時儲かるビジネスの筆頭であった奴隷貿易にも深く関係していた。ポルトガル人が広めた塩干タラは、ブラジルやカリブ諸国で白人にも黒人奴隷にも重要な食料となったからだ。ポ語でバカリャウ、スペイン語でバカラオ、イギリスではフィッシュ・アンド・チップスの原料、とタラを巡る乱獲の歴史から持続可能性維持についてまで、本書は実に面白い。

(原書房 2023 年 2 月 190 頁 2,200 円＋税)

『ラテンアメリカ・ラブソディ』(野谷文昭著)

日本におけるラテンアメリカ文学の研究と翻訳をリードしてきた著者の手になる小論、エッセイ群を集成した一冊。冒頭の「深読み、裏読み、併せ読み、ラテンアメリカ文学はもっと面白い」は東大最終講義。マルケスや中上健次との交友を語り、小論「書かれなかった章」で好意的に紹介しているのが、米国におけるラテンアメリカ文学研究のパイオニア、ジーン・フランコ（コロンビア大学名誉教授）。どのエッセイも読者を惹き込む魅力あり。

(五柳書院 2023 年 1 月 430 頁 3,300 円＋税)

!!「ブラジルあれこれ」!!

移民の原点神戸を訪ねる

「移住ミュージアム」パンフレット▶

4 月中旬、ガイドの仕事でパラナ州の農協関係者約 20 名（半数が日系人）を連れて神戸を訪ねた。神戸訪問中の主要な訪問先は、「神戸市立海外移住と文化の交流センター」内にあり、一般財団法人「日伯協会」が運営する「移住ミュージアム」であった。あらかじめ電話にて訪問予定を伝えておいたところ、同ミュージアムの天辰充幸専門調査員が、一行を出迎え、館内を同行の上パネルや展示品の説明をして下さった。本センターの前身は、日本人ブラジル移住の最初の移民船「笠戸丸」が神戸港を出港した 1908 年 4 月 28 日から 20 年後の 1928 年 3 月に開設された「国立移民収容所」（後に「神戸移住センター」となる）で、その後長期間にわたり神戸から出発した移民達を見続けてきた。建物の外観は、ほぼ当時の姿を今日に伝えているそうだ。さらに、「移住ミュージアム」館内には、移民の人達が神戸港出発前の一週間から 10 日間ほどの日々を過ごした居室も保存・展示されている。日本国内に現存する唯一の移民のための施設という意味で極めて貴重なものだ。ちなみに、筆者は、JICA に職員として採用された 1978 年、当時横浜の根岸にあった「海外移住センター」に新入職員研修の一環で一泊したことがある。その時は、同移住センターには移民達が使っていた居住スペースが残っており、簡素なベッドのある大部屋に宿泊したことを覚

えている。当時の移民達の生活の一端を追体験できたことに感慨を覚えた。現在、JICA 横浜付設の「移住資料館」には、残念ながら居室の展示はない。

一行のミュージアム滞在中、天辰さんより、日系人メンバーが一人ずつ同施設内にある「日伯協会」事務所を訪ねよう案内があり、同事務所を訪れた各人からの聞き取りに基づき検索したという、祖父母や両親の乗船記録や配耕先の情報をプリントアウトしたものが提供された。まったく予期せぬことで、一行全員大変感動した。

後日、天辰さんにこの素晴らしいサービスの概要、その背景等につき尋ねてみた。天辰さんが種明かししてくれたところによると、これは、サンパウロの文協がブラジル日本移民百周年記念プロジェクトの一環として、戦前戦後移民 23 万人の乗船記録を検索できるシステム「足跡プロジェクト」を、100 人以上のボランティアの協力を得て立ち上げたもので、文協 HP の移民史料館サイトから誰でも利用が可能である。

本誌読者には、神戸に行かれたら、ぜひ「日伯協会」の「移住ミュージアム」に足を運ばれることをお勧めする。また、「移住ミュージアム」からも近いメリケンパークには、「移民船乗船記念碑」があるし、同記念碑から歩いてすぐのところにある神戸海洋博物館には、「笠戸丸の模型」も展示されている。(MK)



エミレーツ航空が、南米を近くする。

リオデジャネイロ*
サンパウロ

ブエノスアイレス

FLY BETTER

エミレーツ航空は、サンパウロ、リオデジャネイロ*、南米のブエノスアイレスを含む全世界150以上の都市に就航。シームレスな乗り継ぎで、よりスムーズで快適なビジネストラベルをお楽しみください。

ワンランク上の空の旅へ。エミレーツ・ビジネス

Emirates

日系ブラジル人採用 ～40年以上の実績～

人材で拓く未来のイノベーション

製造請負・製造派遣・技術事業・
人材紹介／紹介予定派遣
業務委託（管理代行）・特定技能登録支援機関
留学生支援サービス



東京オフィス
東京都新宿区西新宿3-2-11新宿三井ビルディング二号館
TEL：(03) 3286-8686 FAX：(03) 5322-2311

Churrascaria
Que Bom!
www.que-bom.com

Produzido pela
ATHLETA®

LOJA ASAKUSA
TEL: 03-5826-1538
TOKYO-TO TAITO-KU
NISHI ASAKUSA 2-15-13 Nikkoshi B1F

LOJA SHIMBASHI
TEL: 03-6402-5685
TOKYO-TO MINATO-KU
SHIMBASHI 4-1-1 SHINTORA CORE 2F



Leading You Forward

充実の体制で中南米に関する高品質なリーガルサービスを提供

中南米における豊富な駐在経験と現地事務所との密接なネットワーク

西村あさひ法律事務所は、世界18拠点で750名を超える国内外の弁護士が緊密に連携し、最高レベルのリーガルサービスをワンストップで提供する日本最大の国際的総合法律事務所です。ブラジル、メキシコ、アルゼンチンをはじめとする中南米各国での駐在経験がある弁護士を含む中南米プラクティスグループを設け、ノウハウや情報の蓄積に努めております。また、中南米の主要な国の多くの有力法律事務所との間で人材交流も含めた強固な関係を構築しているほか、Lex Mundi等の国際的な法律事務所ネットワークを活用し、中南米のほとんどの国において有力な現地法律事務所と関係を有しています。

東京およびニューヨークから有機的にサポート

西村あさひ法律事務所の東京事務所には、中南米の法務について豊富な経験を有する弁護士が多数在籍し、日本企業の皆様の中南米における事業展開をご支援しています。また、ニューヨーク事務所(Nishimura & Asahi NY LLP)においても中南米に駐在経験がある弁護士が常駐し、東京事務所とニューヨーク事務所の各弁護士が有機的に連携することで、日本と中南米の地理的な距離や時差のギャップを埋めつつクライアントの皆様に万全のサポートをご提供しています。

お問い合わせ

latinamerica@eml.nishimura.com

東京事務所 中南米担当: 清水誠、古梶順也
ニューヨーク事務所 中南米担当: 山口勝之、梅田賢

NISHIMURA & ASAHI

西村あさひ法律事務所の中南米プラクティスに関する弁護士等、主な案件実績、関連する論文/セミナー等については、以下よりご覧ください。



ブラジル



www.nishimura.com

Tokyo Nagoya Osaka Fukuoka Bangkok Beijing Shanghai Dubai Frankfurt Düsseldorf
Hanoi Ho Chi Minh City Jakarta*1 Kuala Lumpur*1 New York Singapore Taipei Yangon
*1 Associate office

360° business innovation.



世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。

鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。
たとえばサントス北西のティプラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

[Business innovation-2]

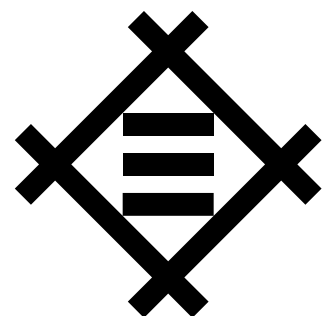
貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。

MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

[Business innovation-3]

現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。

オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、
気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農薬で支え、
増産や品質向上に貢献。



世界の未来を、世界とつくる。三井物産

MITSUI & CO.